

かまどのめし 2稿 冒頭



20240426



エリー





# 目次

1、もしも学校がなかったら？	1
2、占い師がいる村	2
3、村のきまり	4
4、カエデの夢	5
5、見習い	6
6、連想していて不注意	7
7、心配される	8
8、ユウギリの教え	9
9、めし炊き	11
10、関係あるってなに？	13
11、言葉の階層	14
12、一人で炊く朝の様子	16
13、ゴールが分からない！	17
14、最初のご飯	18



## 1、もしも学校がなかったら？

みんなは学校が好きかな？

きっと好きな子も嫌いな子もいるよね。

わたしは好きだったけど、勉強だけしてることにあきちゃった。働いてみたかったから、大学は受験しなかったよ。

だって、今習ったことが、どう役に立つのか、分からないんだもん。それに必要そうなことはいっぱいあって終わりがいいよね！

だからわたしは学校がない世界を想像してみたの！

興味あるかな？

具体的には、7歳になったらスマホがもらえるの。

それで著作権が切れたゲームをスマホでして、読み書き計算から覚えるんだよ。

そして大人からお小遣いを稼ぐの！

これから話すのは、学校がない世界で、カエデという女の子が、60年の人生を振り返る物語だよ。

## 2、占い師がいる村

カエデが育ったナナカマド村は、山奥にあるの。  
山に囲まれた平地に、小さな一軒家が、扇状に 50 軒並んでいる。  
要のところにセンターと呼ばれる大きな建物があるよ。

大人 1 人に 1 軒貸してくれる。  
1 2 歳までの子どもも一緒に住むよ。  
でも大人同士は住めないの。  
それでセンターの給食室で朝昼晩とご飯をみんなで食べるの。  
そして 1 3 歳から 1 5 歳の子どもが、工場で作った制服を着る。  
普通の人は白い服。  
決め事をする村長さんは赤い服。  
相談できる占い師さんは紫の服。

占い師がいるなんてびっくりした？  
タロットと西洋占星術の価値観を村人全員が共有しているよ。  
みんな生まれ変わると信じているし、太陽の星座が取り組むべき課題と考えている。

カエデの場合は、牡牛座の 4 ハウスに太陽と土星と金星が重なっているんだよ。  
太陽が牡牛座は感覚をきたえることが人生の目標。  
土星が近くにあるから、とても時間がかかる。  
金星もあるから、愛するがゆえになやむ。  
4 ハウスは家庭や居場所を表すよ。家族に関することが起きやすい。

簡単にいったら、どんくさい。  
でも頑張り屋さんで、腹の据わった粘り強い子なの。

みんなはどうかな？

すぐにあきらめちゃう？

それともできると信じて続ける？

できるかわかんないまま続けるのはしんどいよね。

カエデがどうだったか、順番に話すね！

### 3、村のきまり

みんなはスーパーで好きなものを買って食べているよね？  
計画して作ったものを食べる訳じゃないから、捨てることも多い。  
お金がなくて欲しいものが買えない人もいる。  
体力がなくて買い物したり、料理ができない人もいる。  
だからわたしが考えた世界では、みんなで協力して料理して、一緒に食べるの。

それで16歳以上の大人はお小遣いももらえるの。  
でも12歳までの子どもにお小遣いはない。村の仕事や家事を手伝って、大人から稼ぐ必要がある。  
大人から子どもはもちろん、子ども同士でも、買った食べ物は分けられない。  
働かないとアイスもチョコもジュースもないなんて、意地悪だよな！

実は理由があるの。  
多くの方は、一番最初に覚えたことが身につくからだよ。  
最後は仕事や家事をするのに、勉強の仕方ですごく頭がいっぱいになってしまう人が大勢いたから変えたの。

みんなはどっちがいい？  
今は答えられないかな？  
読み終わった時には言えるかもね！



#### 4、カエデの夢

6歳までの子どもには、食べ物が買えることは内緒なの。  
見つからないように、隠れて食べるよ。  
でも突然家に帰ったら、嗅いだことがない甘い匂いがしたという噂は耐えなくて、ナ  
ナカマド村の子どもは早く7歳になりたがる。

もちろんカエデもそうだよ。  
絵本に出てくるマドレーヌが食べてみたいくてしかたがなかった。

それでね、お母さんのオモトと同じ仕事をすることにしたの。  
かまどでご飯を炊くよ。  
なぜなら、カエデはお母さんが大好きだったから。  
そして村のみんながお母さんが炊くご飯をほめたから。  
カエデもお母さんが炊くご飯が一番好き。

いつも優しく抱きしめてくれて、おいしいご飯が炊けて、なりたい理想の大人その  
もの。

お母さんと同じ味のご飯を炊くことが、カエデの夢。  
叶うと思う？

## 5、見習い

ナナカマド村では、3月半ばになると13歳の子どもは、町の寮に引っ越すんだよ。工場働くため。

そしたら7歳になる子どもが見習いを始めるの。

やらせてみて、無理と判断されたら、1年延期されるの。

厳しいよね。

カエデの初めてのお手伝いは、ほうれん草を茹でること。

お母さんの他に、ヘチマさんとキウイさんも遊びに来たよ。

二人ともお父さんの同級生なんだ。

ヘチマさんはちょっとお調子者。

キウイさんは気づかいの人。

二人は生まれた時から、ずっと一緒なんだって。

3人ともほうれん草を洗いにいっちゃった。

カエデの仕事は、鍋の底に泡が出たら知らせることだよ。

できるかな？

## 6、連想していて不注意

1分鍋を見ていたけど、何の変化もないから、カエデはあきちゃった。  
そして連想を始めてしまう。

ばちん。  
泡が底から浮かんで、水面で弾ける。  
カエデはシャボン玉みたいだと思う。  
年上の子どもがお小遣いで買って、みんなでシャボン玉を叩いて割ったの。  
目の前でシャボン玉を叩いたら、せっけん水が目に入った！  
痛くて大泣きしてたら、お母さんが来て、水場に連れていってくれた。水で目を何度も洗ったよ。  
洗うと言えば、占い師のユウギリさんは、いい匂いのシャンプーをお小遣いで買っているそう。  
カエデはシャンプーも欲しくなってきた。  
でもマドレーヌも食べたい！  
欲しいものが、次々浮かんで頭がいっぱいになっちゃった。

「カエデ、鍋！」

「は！」

気がついたらグラグラ沸き立って、もうもうと湯気がのぼっていたの。  
カエデはどうなっちゃうのかな？

## 7、心配される

お母さんとヘチマさんとキウイさんが、そばに来たよ。

何を言われるか、カエデはドッキドキ。

ヘチマさんが心配そうに言う。

「やっぱりカエデちゃんには7歳からめしを炊くのは無理だ」

いやーん。

カエデは焦った。

キウイさんを見たら、うなずいている。

「俺らが村長に話をつけますよ」

カエデはどうなっちゃうの？

マドレーヌが1年も食べられないの？

お母さんに助けを求めたよ。

「大丈夫。通常、付き添いは1週間だけど、1年しようと思うの。お小遣いは半分になるけど、1年待つよりいいでしょ？」

カエデは嬉しくなった。

「うん！」

少しでももらえたらいい。

なによりお母さんと一緒に過ごせるのが嬉しい。

カエデがお母さんに抱きつく。

優しい手が頭をなでてくれる。

## 8、ユウギリの教え

見習いをする前に、保護者と一緒に占い師のユウギリさんと話す決まりなの。  
カエデには難しくてよく分かんなかったけど、いろいろ教えてくれたよ。

「カエデ、今から話すことをよく覚えて起きなさい。宗教は廃れたが、こうして占いの価値観は共有された。誰でも占うわけではない。しかし、いいこと、わるいことはみんな一緒だ」

カエデは首をかしげた。

「違うと困るの？」

ユウギリさんは声を大きくして、はっきり答える。

「困る。生き物として食べて、出して、寝る。子どもを産み育てる。人生で生活する以上に大切なことはない。だが」

何を言うのか、カエデはじっと聞いている。

「弱いものが楽に暮らすためには、国内に無いものを買わねばならん。外国から金を稼ぐ必要がある。カエデの父ポトスは輸出して外貨を稼いでいる」

誇らしいカエデは、鼻を膨らませてにっこりと笑う。

「大人も子どもも、衣食住は配給される。だがしかし外貨を稼げる人物に育てるために、働いてない子どもは、小遣いを稼がねば、欲しいものは買えない」

カエデは意気込んだ。

「わたしはワラを燃やしてかまどで飯を炊くの！ それでまだたべたことのないマドレーヌを買うの！」

ユウギリさんが力強くうなずいてくれる。

「いいことだ。昔は同じ年の子どもを集めて、部屋に閉じ込め、正解を教えた。その結果、大雑把な知識だけで、現実を知らず、行動できない人間が増えた。集中力を鍛えてないから、分かるだけで、できない」

何を言っているのか、よくわかんない。それより自分がどうなのか、気になる。

「カエデはできるようになるかな？」

沈黙が流れる。

そして重々しくユウギリさんが断言する。

「なかなかできなくても、年下に追い越されても、くじけずに続けるなら」

カエデは悲しくなる。

「そんなに時間がかかるの？」

いったい何年くらいだろう？

ユウギリさんの次の言葉に衝撃を受ける。

「もしかしたら、一生かかるかもしれん」

一生はショックすぎる！

黙って聞いていたお母さんが、カエデの頭をなでる。

カエデはお母さんに問いかける。

「お母さんの味が炊けるまで死なないでね！」

うんうん。何度もお母さんがうなづく。

「楽しみにしてるよ」

「うん！」

カエデは思った。お母さんが約束を破るはずがない。だから必ず食べさせることができる！

根拠のない確信を得て、カエデはやる気になったよ。

## 9、めし炊き

どうして電気釜があるのに、わざわざかまどでワラを使って炊くのか、みんなはきつと疑問に思うよね？

それはね、村には自然を保護する役割があるからなの。

田畑や山の手入れをして、管理するためには、ワラや枯れ葉や薪を使う必要があるからだよ。

手入れするためには使うのが一番なの！

そして何より、ワラを使って羽釜でご飯を炊くことは、頭も、体も、心も同時に使うから、よい訓練になるの。

続けて仕事にしなくても、全員ができるように挑戦するよ。

村中が体験しているから、難しさも、すごさも分かるの。

4月になって、カエデが初めてかまどでめしを炊く日が来たよ。

力持ちのカエデは、楽々羽釜を運べたの。

そしてお母さんに見守られて、木の容器でお米を図る。

1升枡と呼ばれる四角い入れ物に、山盛り米をすくって、羽釜にいれようとする。

お母さんが慌てて止めたよ。

「待って。平ら！」

「あ！」

やっちゃった。忘れてた。

カエデは気持ちを切り替えて、小さな手ですりきれ1杯にする。

そしてもう1杯入れる。

1回に2升炊くんだよ。

お母さんは満足そう。

「今日は入れ方を覚えたね。あとはわたしがやって見せるからみていて」

羽釜を受け取り、米を磨ぐ。

水が注がれ、かまどに羽釜が据えられる。

ワラに火がつく。

カエデはいつ見てもワクワクしちゃう。母のご飯は美味しい。炊けるのが楽しみ。

ウキウキしてたら、お母さんが大事なことを教えてくれた。  
「水がぶくぶくになるまでちょっと強めにするの。音が変わるから聞いていて」  
耳に手を当て音を聞く。  
水が怒ってる。ジリジリ言ってる。お尻に火をつけられてるもんね。熱いよね。わたしなら怒っちゃうよ。

「今の音、聞いた？」  
「え!？」  
手際よく母が火を落とす。

カエデは困っちゃった。  
「全然分からなかった」  
「火を使ってる時によそ事考えてちゃだめよ」  
首をかしげる。  
「よそ事ってなに？」  
「今はご飯を炊いてる。火と水の様子以外のことよ」  
悩む。  
「水が怒ってた」  
「それは水のことだけど、ご飯を炊くことには関係がないよね？」  
「あるような、ないような……」  
「ないよ」  
違いが分からず考え込むカエデ。

みんなは違いが分かるかな？



## 10、関係あるってなに？

炊いてるところを見ずに、どうして関係がないのか、カエデは頭のなかで問い続けている。

水の話なのに怒っていることは関係なくて、なにが関係あるんだろう？

ご飯を炊くのに必ず火はつける。そしたらぜったい水が怒る。なのに関係がない？

カエデの頭の中はごちゃごちゃでいっぱい。絡まった毛糸玉が詰まってるみたい。

みんなは、「お米を炊くこと」と「水が怒ること」は、関係があると思う？

この話はね、とっても難しい問題なの。カエデが悩むのも無理ないよね。だって10人に2人しか区別がつかないことなんかもん。

改めて次のページで説明するね！

## 11、言葉の階層

えーとね、言葉には階層があるの。

たとえば、「チューリップ、バラ、サクラ」はまとめると「花」だよね？

大きなもみの木のクリスマスツリーを思い浮かべて。

一番上の星に「花」という言葉を置いたら、枝に散らばる飾りは「チューリップ、バラ、サクラ」になる。

「花」はまとめる言葉だから、花という花はない。

本当にあるチューリップ、バラ、サクラを一度に言うときに使う言葉で、全部を指している。

次にかまどで飯炊きする場合を考えてみよう。

星のところに「めし炊き」がある。

飾りには、「はかる」「洗う」「加熱する」「蒸らす」だよね？

でもカエデは、作る行程と関係ない「水」という単語から、「水の気持ち」を想像してる。

じゃあ、みんなはご飯を炊く時に、水の気持ちを考えることは、必要だと思う？

水が怒っているか、笑っているか、炊き上がりに影響するのかな？

「苦しまずに即死した魚」と「暴れまくって身が焼けた魚」では、味が違うという。

でも米も、水も、生きてないから違いはでないだろう。  
た、たぶんね。

(わたしも分からない側の人だから、間違えることはあるよ！)  
(大人も間違うので、自分でも考えてみてね！)

つまり、この流れの結論としてはカエデは全く違う話に移っている。  
でもどっちも「水」という単語が出てくるから、カエデには同じに感じられる。  
全体像を見てなくて、部分に注目している。

全体像が見えて、「今していることに関係あるか？」を区別できたら、とても優秀な人。  
ほとんどの人は分からないから、頭にクエスチョンマーク出ても、安心していいよ。  
できる人がすごくて、できない人は普通だよ。  
でも「できてないことがある」と自分を知ることは大事だよ！

カエデは言葉がクリスマスツリーの形になってることを知らない。階層があると気づいてない。  
だから、「そのクリスマスツリーに飾ってよいか？」の判断ができない。  
なんとなーくで動いてる。  
それで「どんくさい」と思われる。

みんなはどっちかな？  
関係あるが分かるタイプ？  
分からないタイプ？  
分からない場合、カエデのように成長に時間がかかるかもしれない。  
一生かけてもやりたいことはあるかな？  
まだないなら見つかるといいね！

## 12、一人で炊く朝の様子

「はかる、洗う、加熱する、蒸らす」という行程を1つずつできるまで繰り返して覚えていったよ。

お母さんと一緒ならうまく炊けるようになる。

そして1年の付き添いが終わる。初めて一人でめしを炊く朝が来たよ。

お母さんは、いつも通り朝の散歩に出かけていない。

カエデは信じられてることが誇らしい。

きっとできるはず！

センターと呼ばれる大きな建物の前でヘチマさんとキウイさんが、体操をしている。

心配して見に来たんだらうな。

もっと信頼して欲しい！

安心させるために3人とも大きな声で挨拶をした。

「おはよう！」

ヘチマさんが、思った通り言う。

「困ったら俺らをすぐ呼びな！」

安心させようと元気に答える。

「大丈夫、1年も習ったもの！」

キウイさんはただ応援してくれる。

「頑張って」

二人に手を振り、カエデはセンターに入っていく。

どうなるか不安でも、やってみないと分からない。

カエデはどんくさいけど、勇気がある女の子だね！

### 13、ゴールが分からない！

羽釜を机に運んで、カエデは米を図ったよ。

2升枴にすり切れ2杯ちゃんと入れる。

出だしは好調だね！

水を注いでコメを磨ぐ。

ザルをおいて、水を切る。

かなり米がザルにごぼれる。

だんだんあぶなかつかしくなってきたね！

「明日はこぼさないぞ！」

でもカエデは落ち込まない。うまく炊けると信じている。

かまどに羽釜をすえて、ワラに火をつける。

水が沸く音に耳を傾ける。

だんだん音が大きくなる。でも合図の音が分からない。

もういいかな？

まだかな？

分かんなくて、勢いよく炊き続ける。

どうなっちゃうの！？

## 14、最初のご飯

給食室で待つ村人のところに、カエデは羽釜を運んだよ。

フタを取ると真っ黒なカタマリが見える。

1つ年下の科学好きな少年ハガネが怒りを込めて叫んだ。

「飯抜きかよ！」

慌てたヘチマさんとキウイさんが、ハガネの口をふさいだ。

本当のことだから、カエデはなにも言えない。自分のせいで食べられないのに、泣き出したらダメ。涙がこぼれないように必死に我慢したよ。

調理場に戻り、焦げた羽釜をカエデ一人で洗う。

失敗してもいいけど、後始末は自分でするルール。

一人になって、我慢していた涙がポロポロこぼれた。

「お母さんのように上手になるぞ」

声に出して誓っても、どうすればいいか分からない。

どうしていいかわからないまま、時間だけが過ぎる。

周りのみんなはどうおもっていたんだろうね？



---

かまどのめし 2稿 冒頭 20240426

---

著 ELYE

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---